

「一人暮らしの障害者への支援」

～みんなでクライシスプランを考えよう～



村田和俊氏 作「覚悟はあるか」

太白区障害者自立支援協議会が発足され 2 年目となり、太白区を 3 つの地区に分け情報共有や研修会を実施するエリア会を通じて、支援者同士の顔の見える関係が出来上がりつつあります。

エリア会では「一人暮らしの障害者への支援」や「障害者の高齢化」等の話題が取り上げられることが多くなっています。

一人暮らしの障害者が安心して生活できる一助として、クライシスプラン（緊急時の支援計画）を作成して、ご本人も支援者も対応に迷わないような準備を参加者の皆様と考える機会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

日時 平成 28 年 12 月 6 日(火)
15:00 ~ 17:00
会場 太白区役所 3 階
健康診査室・機能訓練室

平成28年度 太白区障害者自立支援協議会 ・ 全体会

参加者 46名
事務局（障害高齢課職員、委託障害者相談支援事業所職員）20名 } 計66名

I 参加者の所属

所属先	人数	割合
就労等通所事業所	8人	17%
共同生活援助事業所（グループホーム）	7人	15%
指定障害者相談支援事業所	5人	11%
地域包括支援センター	5人	11%
行政機関	5人	11%
居宅介護事業所（ヘルパー事業所）	4人	9%
医療機関	3人	7%
入所施設	3人	7%
特別支援学校	2人	4%
その他	4人	9%

II アンケート結果より アンケート回収 43名（回収率 93.5%）

今回のテーマ「一人暮らしの障害者への支援」について ～クライシスプランの作成～
元々クライシスプランについて知っていた者は42%であったが、グループワークを通して
クライシスプランの作成を行った結果、96%の者がイメージできたと回答。

<感想・課題と感じていること>（主なもの抜粋）

- ・ 本人の普段の様子を知る大切さを改めて感じた。
- ・ 他職種の方の色々意見が出て、新たな気づきも得られた。
- ・ 高齢+障害の方への利用ができると思った。
- ・ 本人と一緒にプランを考えていくことの大切さを感じた。本人にとっても、自分を見つめ直す機会になる。
- ・ 日々支援している関係者がクライシスプランを意識して作成できると良いと感じた。
- ・ 親亡き後のことを少しずつ今から一緒に考えること。難しいと思う。
- ・ 衣食住が基本。さらにその他の余暇をどう過ごすか。地域で暮らすことが楽しいと感じてもらうことが大切と思う。

